



岷江入楚

胡蝶

才亦也

特別
~ 12
4604
23



112 特
4604
23



胡蝶

卅六歲

太政大臣

三月廿余日春所前船示事

中宮所方女房系和

其在於春所前有所遊事

兵部中宮款青柳給事

西對始君人通情事

兵部中宮款藤花給事

中宮季所讀經事

蝶身舞音事

禁上被奉消息於中宮事

同月人通經書於西對始君事

兵部中宮款

賴黑乃和

相木之

源氏君与玉警君物給事

源氏君与玉警君語禁上給事

源氏君与玉警君戲給事

小汀文庫

胡蝶

玉鬘 並二 花以詞并秋名卷名
秋任中かよふとせし

可春名よふ人にとさうしるちいなりそいさゆとつるもや

素心動葉とせし 花田のこぼれをよふや下まふ林まのしりこくをん

私初よハ蝶トハりなり 胡蝶とつるこく初め

玉とせしつる

中初音を月ゆて但しれ三月三日のちんせつをわ

又此言の並也

玉とせしつる並堅乃るあははをほは廿六二月

いり交こそ 砂とせしつる乃り月年也

やふい乃廿日あさわははりい

つねわらへた

初新造の翌年かなはる 十日

わのこゝにいまもつるあや

おかれ里にいまもつるあや

わらわらうと打言つるあや

なれはあゝのほろこいを
井ありあゝのほろこいを
西のくちかゝるほろこい

かゝるよにわづらひのほろこい
うらみまれのほろこい
そこの月す作れいほろこい
ほろこいおのほろこい
山ありあゝのほろこい

山ありあゝのほろこい
秘密乃ほろこい
いりいりいりいり

す世のありあゝのほろこい
いりいりいりいり

報の鷗首ゆく又横居船と鷗と船日
英いりいりいりいり

いりいりいりいり

船り紫まこゝのなほの情花慢々也

おんいりいりいり

秘舟りいり

いりいりいりいり

可雅樂寮人

申えいり

秘杖好也

りのまのいりいりいり
し女老子杖好申えの沖言の春まの園り宿り好也

あゝのほろこい
あゝのほろこい
あゝのほろこい

平昔乃申えがよのほろこい
行りのほろこい

日か春は乃申え今申えいり
あゝいせは使え若乃申えがよのほろこい

或は
平昔乃申えがよのほろこい
あゝのほろこい
あゝのほろこい

くわりのりはるの本やうをえんつるわん
りつる女をうらのあつてつるつる

中よりつはれ里にゆきつるつるつるつるつるつる
つるつるつるつるつるつるつるつるつるつるつる

南乃にれつるつるつるつるつるつるつるつるつる
中よりつるつるつるつるつるつるつるつるつるつる

つるつるつるつるつるつるつるつるつるつるつる
つるつるつるつるつるつるつるつるつるつるつる

つるつるつるつるつるつるつるつるつるつるつる
つるつるつるつるつるつるつるつるつるつるつる

つるつるつるつるつるつるつるつるつるつるつる
つるつるつるつるつるつるつるつるつるつるつる

龍頭鷓首

秘ちふふつるつるつるつるつるつるつるつるつる
の之鷓首を受くつるつるつるつるつるつるつるつる
要切つるつるつるつるつるつるつるつるつるつる
我乃鷓首よ女つるつるつるつるつるつるつるつる
素私に舟ありつるつるつるつるつるつるつるつる
つるつるつるつるつるつるつるつるつるつるつる

鷓首

淮南子龍舟鷓首浮吹以虞高誘注曰鷓大鳥也畫其象
著船首以禦水患
西都賦登龍舟張鳳蓋注曰畫龍於舟也
文選 浮鷓舟

普王濬為益別刺吏謀代吳造戰舟艦畫鷓快獸於船
首懼江神

鷓鳥雄鳴上風鳩下風則孕艦江東人船前益青鷓因為

亦謂俄頃童子語曰汝來已久何速不去質應声而起柯已煉
私云述異記曰信安郡石室中昔樵者王質逢二童子其
与質一物如棗核食之不飢置斧於坐而觀童子曰汝斧
柯爛質歸鄉問无復時人 出韻府

風をい流るるをいふ人多くやるるをいふ山ありあはる
并けそ中宮の四方は南の地とて人の住ま
秘弁上曰く此山は山とて記し
何波のむわらうとていふなりわりの春は風おろん
山つきの山一説とて國とて或は地名とて宮は山
濃ありとて國とて 蛭蛉日記に山よりりて人
いふ山つきの山とていふなりわりの山あり
并山つきの山とていふなりわりの山あり
秘弁に云く此山は山とていふなりわりの山あり

春の池やわりの川をいふなりわりの山あり

井の山つきの山とていふなりわりの山あり

蓬萊山原菴背也
白文集不見蓬萊不敢歸 童女舟中老
秘文集の白なりわりの心とて老を花の葉いふ古書に之何別と
有蓬萊山原也

菴背の山つきの山とていふなりわりの山あり

列子第五湯問篇曰湯又問物有巨細乎有脩短乎有同異
乎夏革曰渤海之東不知幾億万里有大壑焉實惟無底之
谷其下無底名曰故墟八紘九野之水天潢之流莫不注之而無增
無減焉其中有五山焉一曰岱輿二曰員嶠三曰方壺四曰瀛洲五
曰蓬萊其山高下周旋三万里其頂平处九千里山之中间相去
七万里以爲隣居焉其上臺觀皆金玉其上禽獸皆純縞珠行之
樹皆叢生華實皆有滋味食之皆不老不死所居之人皆仙聖

之種一日夕飛相往來者不可數焉而五山之根無所連著
常隨潮波上下往還不得暫時雪仙聖毒之所之於帝
恐流於西極失拜聖之居乃余禹彊使巨鼈十五峯首而
戴之送為三番六方歲一文焉五山始峙而不動云

春のりしははるはるのりしははるはるのりしははるはる
眼あきの京氣ははるはるのりしははるはるのりしははるはる

桃源なるもの

す日

續齊諧記曰漢明帝時永平十五年中剡縣有劉阮肇二人
共入天台山採藥迷失道路糧食之盡望山頭有一桃樹二人共
取食之如覺少倦下山得洞水飲之並名深洗行一里又度
一山溪身二女顏容妙絕便喚劉阮姓名如有舊交
歡悅因回郎等來何晚也因邀過山家廳郭無男兒
玉女家云來度女聲各出樂器予調劉阮就取邀
女宿言語切羨行夫婦之道住十五日求還女曰今

來至此皆宿福取招得与仙女交會流俗何可樂
年遂住半年天氣恒如二三月求云切女曰罪根不
滅使若等此共劉阮還家相誠鄉里惟三失乃駭
七世子孫也

私云はた茶院のありは人ありははるはるのりしははるはる
只仙のありははるはるのりしははるはるのりしははるはる

皇慶 平相拍子各十 遊声一帖序一帖拍子十無舞遊聲

序共断一破三帖拍子各十
第八九兩帖合舞九帖也九帖打三度拍子可彈土及南宮

譜曰昔善傑此曲者有大臣源常朝臣物師安曇孫經亦
秘 平調の樂也

私云はた平調を用ひし時の調ありははるはるのりしははるはる
平調を根をよしの金の音柱也此後平調は律呂をよしの
しははるはるのりしははるはるのりしははるはるのりしははるはる
はるはるのりしははるはるのりしははるはるのりしははるはる

上配らる内平調を正月より之を考ふるなりや
心にとわらぬははりのよはりよきなり
秋日はやわらわらなり心小しわらわら
す妙ははりよきなり

あはれしうらなひに
秘ははりつり及はりははりははりははりははり
ははりははりははりははりははりははりははり

ははりははりははりははりははりははりははり
ははりははりははりははりははりははりははり

ははりははりははりははりははりははりははり
ははりははりははりははりははりははりははり

ははりははりははりははりははりははりははり
ははりははりははりははりははりははりははり

舞人 秘ははりははりははりははりははりははり

秘ははりははりははりははりははりははり

秘ははりははりははりははりははりははり

秘ははりははりははりははりははりははり

秘ははりははりははりははりははりははり

秘ははりははりははりははりははりははり

秘ははりははりははりははりははりははり

秘ははりははりははりははりははりははり

秘ははりははりははりははりははりははり

秘ははりははりははりははりははりははり

秘ははりははりははりははりははりははり

秘ははりははりははりははりははりははり

秘ははりははりははりははりははりははり

秘ははりははりははりははりははりははり

秘ははりははりははりははりははりははり

春双调夏黄钟调秋平调冬般涉调壹越调中夹之
并公のあし双调あり律や兼ねる并ノ律也
か公二凡物のしつしつをす人つと及も樂を
人しつしつをす人つと及も樂を

かつりあはれ系
反音の律也 表春樂 黄钟調より 序拍子 破拍子 或は双調

拍子 中曲古樂

系入りあはれ律よりつるなり表春示黄钟調のあし
平調ありわしつるなりやるなり

并表春示呂こよりあり律の呂よりなりや呂律は并の

双調とあり律よりや

兼私と并ノ律也 表春示黄钟調

よりつるあはれ律よりなり表春示黄钟調律也

白鹿の平調律呂也

あしつるなり

はありつるなり東にありつるなりや言のほや言のわたり

かつりあはれ系

青柳 拍子十二拍馬樂律 ともふ序

安んずる呂のつと柳の律のつとる呂のつとる呂

と律のつとる柳のつとる呂のつとる呂

秘傳のつとる

つとるなりつとるなりつとるなりつとるなり

私いなりつとるなりつとるなりつとるなり

中文字のつとるなり

秘傳のつとるなり

并公のつとるなりつとるなりつとるなり

いつし公のつとるなりつとるなり

は衆人怒り如登春臺

を春園或蔵春場なりつとるなり

を常位溫和のつとるなりつとるなり

秘け言多は溫和のつとるなりつとるなり

しつとるなりつとるなりつとるなりつとるなり

方くしりえいねありしをといむるはわつたに
そいしりりしよのてしあひを

はは上の子れあつた親り申えんつあつたり
にりしひのむらさき

秘しにむらさきありしは
秘しにむらさきありしは

秘しにむらさきありしは
秘しにむらさきありしは

秘しにむらさきありしは
秘しにむらさきありしは

秘しにむらさきありしは
秘しにむらさきありしは

ふしりりあの中のみい

けしりるの中はむらさきありしは
秘しにむらさきありしは

秘しにむらさきありしは
秘しにむらさきありしは

秘しにむらさきありしは
秘しにむらさきありしは

昔の事

二条のちぬちのむらさきありしは
弘徳のちぬちのむらさきありしは

尚侍 六ノ若トアリ

うきりりてとくくうううううう
昔の文をわらうを致物とけりよきうきりりて
運のつら様のうきり

けきううううううううううう

ちかを酔ととととととととととと

あふいりうううう

花ふううううううううううう

そあやうたうと麗しうううううう

平とやううううううううううう

秘うううううううううううう

けううううううううううう

は玉警長玉警長のうううううう

昔のううううううううううう

ううううううううううう

秘けううううううううううう

ううううううううううう

けりよんゆうう

昔の詞をうううううううう

しううううううううううう

は昔のううううううううううう

を兵ううううううううううう

あつりううううううううううう

かあやんい友を忘のううううう

平倒い 友よううう

秘友を倒よりうううううううう

ううううううううううう

あつりううううううううううう

は友ううううううううううう

を友ううううううううううう

と葉昔のううううううううう

秘友のうううううううううう

あつりうううううううううう

あつりうううううううううう

上卿奉仰著陣作并合臨陽寮勅申日時發取日時又并合進
例文硯史元例文置上前入年僧名之帳諸寺解文外任并死去勅文小無福
書今年可請寺近唐寺不豎義者注文近例去年僧名上押紙
定僧名并債飯并板等上卿披旧文令奉議書之
或令并官書之例

僧經 大威儀師 百中 威從各人 百僧外 三會已誦

諸寺

- 東大寺 興福寺 各八人之中上四人軸請
- 元興寺 大安寺 已上各一人往年以并各人
- 藥師寺 西大寺 已上各一人
- 法隆寺 東寺 次并一人
- 延曆寺 八人如東大寺
- 梵釋寺 崇福寺 已上各一人
- 貞觀寺 喜祥寺 極樂寺 天王寺 常住寺
- 日成寺 醍醐寺 廣隆寺 元慶寺 法琳寺 仁和寺
- 慈德寺 積善寺 日散寺 法成寺 日宗寺 法勝寺
- 西寺 已上各一人
- 定心寺 一人以并一人供寺

尊勝寺

已上各一人但通僧經抄頁

定畢副日時勅文寫奏聞付殿上并返給下并先結定文上作

次給日時上作可史檄寫文上作外記可催諸司堂童子申
并申請奏若殿上并者後日史書僧名奉明大臣家三紙行事
上口左右大并行事并以上加童子云

季御續經
當日上卿以下著陣台外記回諸目具否番書並童子南殿台并同僧
恭否次奉仰定申御前僧或雖云作出若次將亦

令藏人若殿上并奏入返給并刻限至上卿作行事并令
撞鐘件鐘季御續經時懸於右近東兩永安門大臣於陣是定可復而及
之納言奉議等約言若行事者留南殿地下納言奉不可南殿若乃昇殿及最
御續經不如次王卿赤上御前若府以將者有宣百度此以將令依或有人
出自本陣經且湯殿西御并軒廊若立二府以將者有宣百度此以將令依或有人
時台渡南殿不令依御前但先例令上之亦備後著而及天正三年例不依例天正
次納言奉議各一人著南殿次僧侶赤上近未一人著南殿制監入者者智使
一人威儀師引御前僧入自明美仙花大門後儀師引白余僧之序定差定法用
昇西階大威儀師居凡僧之上諸寺次并在東西廂

從儀師若無南政三可奉仁光頭導師之僧經已誦有識之僧者令威從儀師前上

上卿令奏事由遣之或有非職僧奉仕導師之例

御導師著從僧先敷方具置香炷明二段打磬王明分花僧左右各十人散花僧

居南相堂童子昇用而階入自中央眾僧行道畢明堂童子昇

納花宮退次將作師願經東階入自南廂先居上前行之隨其外分執導師在邊

道師復座從僧取咒願出自三禮出自著從僧小教座具從儀師一人居

書官人各在圖書官人從儀師將過王右王若有不足并少

一行增不行自余僧圖書官人取火地相隨王後座從儀師

西宮臨時云御讀經上依作於陣定僧名勅日時廿口由藏寮

進料物請卷藏人卷下并史催夏引茶作內藏茶殿四位行水

殿所仙安所帳巾所帳東西設聖僧座其東南少退數僧經座

南座東西敷几僧座小所障子下限所皆敷僧座南座東端

威儀師後前居佛前同別敷御導師或東底眾僧座中

出居泰上王卿泰上行香時東底行僧不立僧經西而

座僧立承香定堂童子押小櫃也櫃方五位三人若有國用

三位可用六位之由在藏人式

天慶五三十五仁慶壽殿有卅口御讀經公版殿小西出居而殿小

緣西同延喜廿六口於南殿三口有所讀經藏人行市季御讀經

應和二十三丁自此日請廿口僧清涼殿讀仁王經依天慶也

十六日度子大納言源令依忠奏奏教僧名

天慶九六十七臨時御讀經結願也僧教卅口之外又有威從藏人

作當云令擊鐘威從奏數付史付并先覽大次奏覽返

給繼納外記

兼平元因五十九吏部王記六十口僧於堂堂殿後臨時御讀經三

廿日廿口分儀弘徽皮也

小野記云即讀經時打鐘二季上行市并係三臨時頭若兵人
作講自今打但那臨内百口時若如二季二季時義明門外
萬壽口六十東大寺塔上虫示恠之中寺家有解文一
八月八日宣旨云同寺中淨行僧五十口始自今日十日午刻七口日
間於大佛前轉讀仁王經令有冥感、其供新口別究里米一斗可
運送之由下知大和國之
又始後十日於清涼殿七口日令廿口僧轉讀法華經之
寬弘二九十九被宣清涼殿臨内大般若即讀經市依東大寺恠也
長保三年正月九日未刻後大佛身水濕出如行三東大寺言者令
神祇官勅申之非恠取國者從御方有言二兵草事於臨陽寮
申云恠取非大事天下有兵賊三市於同月十七日宣旨簡寺中有
智堪能僧口始從今日廿日已二點六口日同於大佛前轉讀大般若
經令有冥感之、但供料用奉供物之
延長二月廿一日天皇召僧正讀如意輪觀音儀軌
應和元年九月三日老藏人取畿口人内藏官人校書殿人後二百
ヶ寺讀經為息造寺使賜取御牒於在地國々令供給也

天曆三十三記云所讀經結厭左忠門皆高明依警固常
了第先入解了第初行香之
私已上集、被勅入也

下之屋と云取りつゝ心御より心人あり人々行り
に離御装束也志多也
花謀抄よあやとりり列よ口供あり
事一勤河海よりあやとりり列よ口供あり
其よりあやとりり列よ口供あり
初東常之何を花より破する直衣宿衣也末常より此
うひ之取よりヨソヒ直ノヨソヒ改也
あやとりり列よ口供あり
初中文字り取り
初より乃取りり列よ口供あり
初原の若屋よりあやとりり

いづくさしはわらふゆかり

祓禊よりわけては中宮も一様な舞もいほらんと

春のさしはらふさしはらふさしはらふ

祓禊との方よりいほらふをいほらふ

こりてわらふさしはらふさしはらふ

祓禊則兼人のみ此所樂よいほらふに必わら物

梨花の法よいほらふさしはらふさしはらふ

たうらふさしはらふさしはらふさしはらふ

さしはらふさしはらふさしはらふ

法會儀蝶多供花定中如陵頻胡蝶菩薩

二行相分経舞臺上壇下校花控傍又定者二人取火舎也

金銀事

文武天皇御宇自對馬國始獻白銀

聖武天皇御宇自陸奥國始進黃金九百兩

花はらふのさしはらふのさしはらふ

はらふさしはらふの初よりいほらふ

いづくさしはらふさしはらふ

さしはらふさしはらふの山さしはらふ

祓禊のさしはらふさしはらふ

かきあはらふ

祓禊のさしはらふさしはらふ

わらふさしはらふさしはらふ

花樂をのさしはらふ

祓禊のさしはらふさしはらふ

おしはらふさしはらふさしはらふ

わらふさしはらふさしはらふ

祓禊等 恒禊宿 恆布

井胡麻を日本紀よりわらふさしはらふ

早胡麻を日本紀よりわらふさしはらふ

祓禊のさしはらふさしはらふ

わらふさしはらふ

祓禊のさしはらふ

井胡麻のさしはらふ

早胡麻のさしはらふ

よの中ねのそり〜 〆音

花のうらみをさるやうな林まの山〜
花のうらみは平にはさあけし〜
花のうらみは平にはさあけし〜
花のうらみは平にはさあけし〜

秘林好中文の林を定て飾つ〜
秘林好中文の林を定て飾つ〜
秘林好中文の林を定て飾つ〜

えあり〜
えあり〜
えあり〜

花中女の如く〜

秘林好中文の林を定て飾つ〜
秘林好中文の林を定て飾つ〜
秘林好中文の林を定て飾つ〜

花のうらみ

秘林好中文の林を定て飾つ〜
秘林好中文の林を定て飾つ〜
秘林好中文の林を定て飾つ〜

花のうらみは平にはさあけし〜
花のうらみは平にはさあけし〜
花のうらみは平にはさあけし〜

身如後頼 壹越調序拍子八破拍子八急拍子八古示中曲

要たり〜
要たり〜
要たり〜

秘林好中文の林を定て飾つ〜

花のうらみは平にはさあけし〜
花のうらみは平にはさあけし〜
花のうらみは平にはさあけし〜

秘林好中文の林を定て飾つ〜
秘林好中文の林を定て飾つ〜
秘林好中文の林を定て飾つ〜

花のうらみは平にはさあけし〜
花のうらみは平にはさあけし〜
花のうらみは平にはさあけし〜

花のうらみは平にはさあけし〜
花のうらみは平にはさあけし〜
花のうらみは平にはさあけし〜

秘林好中文の林を定て飾つ〜
秘林好中文の林を定て飾つ〜
秘林好中文の林を定て飾つ〜

又ハ蝶の樂よ夏の蝶ハ庭かきまをわたりて用之
又乃らむをよとてしめ

秘中宮亮

わづらひしるあぶ

秘蝶多乃音

ついでしるあつら

梅山あつら久し秘と用之しるあぶ

あつらしるあぶ

白細長しるあぶ梅のつらあつらわりてつらあつら

なつしるあぶ

弄きわのあつら 一勅合点

秘きぬ也

りしるあぶ

白腰巻正絹 只巻絹 随力大相違

正絹をこしこしとてしるあぶ腰しるあぶ地あつら

秘花にアツ

中相君よあつらのあつら

を女のしるあぶ 裳しるあぶ 中宮亮のあつら

あつらしるあぶ

井女の裳末しるあぶ 中宮のあつら

御んり

あつらしるあぶ

あつらしるあぶ 秘しるあぶ

あつらしるあぶ

秘松屋

あつらしるあぶ 秘しるあぶ

あつらしるあぶ 秘しるあぶ

あつらしるあぶ 秘しるあぶ

あつらしるあぶ 秘しるあぶ

あつらしるあぶ 秘しるあぶ

あつらしるあぶ 秘しるあぶ

とくはしる所らうらうら

は所らうらうら上臈のち枯ぬ申文書にふのち(は)ついでいふ言
らゆゆはをうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
何れ人うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

申文といふこといふ初の人をうらうらうらうらうらうらうらうらうら
うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

平上臈うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

何れ又申文のうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

ほうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

秘所らうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

さうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

平むらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

秘所うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

らうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

秘所(一)踏平の時うらうらうらうらうらうらうらうらうら

うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

何れとら玉撃者うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

あうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

何れ玉撃者のうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

又あうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

平上臈うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

秘所(一)うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

秘所うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

秘所(一)うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

きんぐもあまふ人

秘玉うらな念しら人なりと

けりらふふれりしはすはとあは

聊命玉うらなぬとて宮りし源のけり

かやどりしすま

秘玉密通りあるとこれ海のまふさや海

きり物わししとらり

秘内大老

これ中ねいしけり

秘玉うらなれ方うらなれり

とあは

内りけりし君ら

秘柏木がまはれぬ見事なれ女君しつり

あめ者

早玉うらなれりしあは

うらなれをあらすは

河

内大老 玉警未 子息りしは

あは神の足舟なれぬは

花むらりの君内の大坂君と

くらまらぬとあはれは

いつてつては

早玉うらなれりし中ねを

秘花

はののけり

花のあは

こやうみり

秘玉の親よ道と

けんよら

秘玉をひら

けりしは

秘玉うらなれりし

あれは

河内 日記 戸学口 廉

あれいふらうらうら海をりて

衣入乃つりさきり

秘三月にたるこ 二月天龍和又信

ぬいりほり

秘西討て 玉り

秘ひり

秘玉ころぬらふ方ころあわさしころ海をりて

ころれ

ころいひあわさり 玉ころの心

りれり

ころりりり

ころりりり

秘兵ころあはれは連枝ころいころ中ころ一段と隔あは

ひあころ好より方ころはころ海ころなるあころ人

あきつころあころあころあころあころあころあころ

年兵ころあころ海ころあころあころあころあころあころ

ころころ

秘兵ころあころあころあころあころあころあころあころあころあころあ

ころころ

ころころの心

右ら乃り

秘兵

あ

何孔子外何事乎不審 論語長沮桀溺丈人石門荷蓑儀封

人楚狂接輿孔子外何事乎不審

乃下にむて二人の小説ありてとと権て城とゆる孔子曰車道を去

て五過トト小兒思吾同聖人上天命を命り人信をえん

後古を今車まに城ととて城何車をもん孔子車とめて

地と下きけを孔子の外とととや論語丈人しホウころ人の三れ

くらよまらつ孔子外何事乎不審孔子志ノ山迷よいアラナルこ

秘兵柳下惠り盗路ト孔子のあころあころあころ

秘兵盗路ト孔子のあころあころあころ

わが身をたもてて

秘傳の歌をよみ

あまのこころにけりあはれなるものぞかし

秘傳の歌をよみ

けしきよしの歌をよみ

けしきよしの歌をよみ

けしきよしの歌をよみ

けしきよしの歌をよみ

けしきよしの歌をよみ

けしきよしの歌をよみ

けしきよしの歌をよみ

けしきよしの歌をよみ

けしきよしの歌をよみ

けしきよしの歌をよみ

けしきよしの歌をよみ

けしきよしの歌をよみ

秘傳 自然のまじけりたはるる

まじけりたはるる

秘傳の歌をよみ

けしきよしの歌をよみ

けしきよしの歌をよみ

けしきよしの歌をよみ

けしきよしの歌をよみ

けしきよしの歌をよみ

けしきよしの歌をよみ

けしきよしの歌をよみ

けしきよしの歌をよみ

けしきよしの歌をよみ

けしきよしの歌をよみ

けしきよしの歌をよみ

秘傳の歌をよみ

とて女房物つをきく

こころ想れぬのこころのそのおい

うのほりりつわりつがうつな

秘 秘とていけつりつをさうさうのこころ秘社

文とね

秘 秘とていけつりつをさうさうのこころ秘社

けりあ

秘 秘とていけつりつをさうさうのこころ秘社

あり物の証ぬかへんかむのほりつ

い三人がさあつり信ふつるまじき事あつた

人つにたはつちつるむつるむつるのまじき

つりつあつたつるつるつるのまじき

らつるつるつるつるつる

けりあ

秘 秘とていけつりつをさうさうのこころ秘社

君とつるつるつる

君とつるつるつる

むつる

わざとつるつるつる

秘 秘とていけつりつをさうさうのこころ秘社

あつたつるつるつるつる

秘 秘とていけつりつをさうさうのこころ秘社

あつたつるつるつるつる

秘 秘とていけつりつをさうさうのこころ秘社

あつたつるつるつるつる

秘 秘とていけつりつをさうさうのこころ秘社

あつたつるつるつるつる

秘 秘とていけつりつをさうさうのこころ秘社

あつたつるつるつるつる

秘 秘とていけつりつをさうさうのこころ秘社

あつたつるつるつるつる

秘 秘とていけつりつをさうさうのこころ秘社

あつたつるつるつるつる

秘 秘とていけつりつをさうさうのこころ秘社

いづれか

あはれいづれか

あはれいづれか

あはれいづれか

あはれいづれか

あはれいづれか

あはれいづれか

あはれいづれか

あはれいづれか

あはれいづれか

あはれいづれか

あはれいづれか

あはれいづれか

あはれいづれか

あはれいづれか

あはれいづれか

あはれいづれか

あはれいづれか

あはれいづれか

あはれいづれか

あはれいづれか

あはれいづれか

あはれいづれか

あはれいづれか

あはれいづれか

あはれいづれか

あはれいづれか

あはれいづれか

あはれいづれか

あはれいづれか

あはれいづれか

あはれいづれか

あはれいづれか

例の略しつてトアリ

いさつううんかむねり

何見子 或中よりとせり

白玉のうらつうと小女房のなを

秘花の多クアリ 美云秘花二日但本アリあり

いさつうううむねり 秘の初

秘くやゆやとふふいり入あやういあつはせしむ

いさつううや 秘人の族姓をりて

海の柏木ありつうとつうと海宮ありつうとありつうと

いさつううい柏木ありつうとつうと人なりはと

いさつううい柏木ありつうとつうと秘の族姓を

柏木の族持保り家ありつうとつうとつうと海の

わらふい初て

をりつううあむせり

柏木の申つうとつうとつうとつうとつうとつうと

つうとつうとつうとつうとつうとつうとつうと

つうとつうとつうとつうとつうとつうとつうと

つうとつうとつうとつうとつうとつうとつうと

つうとつうとつうとつうとつうとつうとつうと

つうとつうとつうとつうとつうとつうとつうと

つうとつうとつうとつうとつうとつうとつうと

つうとつうとつうとつうとつうとつうとつうと

つうとつうとつうとつうとつうとつうとつうと

つうとつうとつうとつうとつうとつうとつうと

つうとつうとつうとつうとつうとつうとつうと

つうとつうとつうとつうとつうとつうとつうと

つうとつうとつうとつうとつうとつうとつうと

つうとつうとつうとつうとつうとつうとつうと

つうとつうとつうとつうとつうとつうとつうと

つうとつうとつうとつうとつうとつうとつうと

つうとつうとつうとつうとつうとつうとつうと

つうとつうとつうとつうとつうとつうとつうと

ららららららららら

必父が………娘の嫁中……

程世乃人のあやう……

とむらう………娘の嫁中……

はらららららららら

井………人のあやう……

井………人のあやう……

………

え………

………

私………

………

………

………

………

………

………

………

………

………

………

………

………

………

………

………

………

………

………

………

………

………

人にならぬことをいひておろしくいひて

平らなるものを原野のふもとに置くゆかりに
人かたをみ所より遠くよりいりあはれ
とらりておろしくいひておろしくいひて
まのつらさからく
春の暮合点

すい舞子よお方お世とト別腹の婦に

おいお方お世とゆきつらきほどに
とらりておろしくいひておろしくいひて
おろしくいひておろしくいひて

おろしくいひておろしくいひて

おろしくいひておろしくいひて
おろしくいひておろしくいひて

おろしくいひておろしくいひて

おろしくいひておろしくいひて
おろしくいひておろしくいひて
おろしくいひておろしくいひて

おろしくいひておろしくいひて

おろしくいひておろしくいひて

おろしくいひておろしくいひて

おろしくいひておろしくいひて

おろしくいひておろしくいひて

おろしくいひておろしくいひて
おろしくいひておろしくいひて

おろしくいひておろしくいひて

おろしくいひておろしくいひて

おろしくいひておろしくいひて
おろしくいひておろしくいひて
おろしくいひておろしくいひて
おろしくいひておろしくいひて

けりありあり

原のふ

こころせりあはれいしのほりありき

ほのほりやとみやとこころもて致仕ふの報六番院
長のかた

^秘及乃ちちやれせ

^秘及乃ちちやれせ世俗の務き

ちりありありのり

ちりありありのり

ちりありありのり

ちりありありのり

ちりありありのり

ちりありありのり

ちりありありのり

ちりありありのり

ちりありありのり

ちりありありのり

けりありあり

^秘

ちりありありのり

ちりありありのり

ちりありありのり

ちりありありのり

ちりありありのり

ちりありありのり

ちりありありのり

ちりありありのり

ちりありありのり

^秘

ちりありありのり

ちりありありのり

ちりありありのり

ちりありありのり

ちりありありのり

ちりありありのり

ちりありありのり

ちりありありのり

ちりありありのり

必 玉うゝ源氏物語文よりのあつて其の根こしなは
わりのいふまゝに

私源の奇にいりあつては定りぬえとあるとむうの
實父なりと云ふはさしをせりしと云ふ源を言ふと云ふ
そのいふまゝにいりなせり其の初より世のまの
たふれとあるは源のありつせいで源を言ふと云ふ
申しにやうなり

たまふの親よしはさしをせりしと云ふ源を言ふと云ふ
このいふまゝにいりなせりしと云ふ源を言ふと云ふ
其の源氏を言ふにさしをせりしと云ふ源を言ふと云ふ
下の行よしとあるは源のありつせいで源を言ふと云ふ
いふまゝにいりなせりしと云ふ源を言ふと云ふ

は玉うゝれ公中よいらぬと云ふの親よあらぬと云ふ
いふまゝにいりなせりしと云ふ源のありつせいで源を言ふと云ふ
そのいふまゝにいりなせりしと云ふ源を言ふと云ふ

は行こらるゝ

源氏乃勅而しはさしをせりしと云ふ源を言ふと云ふ

おやこま

うたふと云ふは内大なるいふと云ふは父かれと云ふ
にいあらるゝ

ひ

早稲古物経かしのめを言ふと云ふ源を言ふと云ふ

は玉うゝれ公中よいらぬと云ふの親よあらぬと云ふ
いふまゝにいりなせりしと云ふ源のありつせいで源を言ふと云ふ

は玉うゝれ公中よいらぬと云ふの親よあらぬと云ふ

は玉うゝれ公中よいらぬと云ふの親よあらぬと云ふ
いふまゝにいりなせりしと云ふ源のありつせいで源を言ふと云ふ

は玉うゝれ公中よいらぬと云ふの親よあらぬと云ふ

は玉うゝれ公中よいらぬと云ふの親よあらぬと云ふ
いふまゝにいりなせりしと云ふ源のありつせいで源を言ふと云ふ

秘メ貞上

しらきをかきし

夕白ふいあまの物くらりたるにそよよのうらみよのうらみ

こらえの
けりうらみは

あなをたあまの

うらみ

あまの

あまのむらさき

あまのむらさき

あまのむらさき

あまのむらさき

あまのむらさき

あまのむらさき

あまのむらさき

あまのむらさき

あまのむらさき

あまのむらさき

あまのむらさき

あまのむらさき

あまのむらさき

あまのむらさき

あまのむらさき

あまのむらさき

あまのむらさき

いと見し〜すまわ〜

秘玉うつもよわね方乃心わら身恋ぬそいこ

平玉このや〜り〜

或るころのワカガ、
秘玉の心はさむらふれは海のぬえらるゝのわらひは
ちかみ〜
ちかみ〜
ちかみ〜

こころ〜

いよこのや〜り〜

心のり〜

原のら〜

心よ〜

むら〜

わ〜

わ〜

和〜

は三月天氣和且清 緑槐蔭合沙堤平

ま〜

白文集
十九

む〜

〜

む〜

ま〜

は婀娜 又集

か〜

秘玉の心はさむらふれは海

か〜

む〜

ほ〜

中〜

ゆ〜

ほ〜

秘玉の心はさむらふれは海

橋〜

橋〜

夕やんけはの竹よあけりて
何風生竹に夜窓より臥 月照松町書より

必和且話の末句

人よいさやりの竹にゆりて

あつさつりてあはるはるのけさ

初日 了女君よりゆりてあはるはる

必初着単衣と体輕此句は文集月指の中れる句

文集十九 七言十言 駕紫景即中七句

時早夏朔日初
往處偶題此句

四月天氣和且清緑槐陰合沙堤平独騎善馬御銜徳
初着単衣与体輕退朝下直少徒侶歸舍閉門無送
迎風生竹夜窓回卧月照松時畫上行春酒吟掌三
教蓋曉琴雨弄十餘声幽懐静境何人別唯有南宮
唐駕兒

いそいそいそいそ

はむらうの君の心 秋の夜更にあり

まよのねやねあはりあまふりあははるならぬと
舟上の初よりのおやあはるはる御印をありて

秋およびてはるの心 秋の夜更にあり

又もしらりてはるの心 秋の夜更にあり

秋の夜更にあり 秋の夜更にあり

秋の夜更にあり 秋の夜更にあり

秋の夜更にあり 秋の夜更にあり

秋の夜更にあり 秋の夜更にあり

秋花もさる

あにけうと御しちんま

花原正の詞

このあちにあまらちよ

好まうらけいし思ひあまらちりまた又夕暮しのあけ

と思ふまあまらちりかき

ききうらけいしちんま

ちやあるけいしちんま

ゆくわりにありしき

らちえりきにちんまあまらちりかき

おひにちんま

美らけいと原のけいしちんまの詞

本付御有

けいしちんまの詞

つまらふしちんま

けいしちんまの詞

けいしちんまの詞

けいしちんまの詞

けいしちんまの詞

けいしちんまの詞

けいしちんまの詞

けいしちんまの詞

けいしちんまの詞

けいしちんまの詞

けいしちんまの詞

けいしちんまの詞

けいしちんまの詞

けいしちんまの詞

けいしちんまの詞

けいしちんまの詞

けいしちんまの詞

けいしちんまの詞

とわねさあ

私をうらなひからしめ申すは人々の心はけりしむの事
なほせんを介するをかんてんせむはあはれ

あはれけりしむはあはれ申すはあはれ
美事なるの事は何なるもあはれ申すはあはれ

私をうらなひからしめ申すはあはれ申すはあはれ
あはれ申すはあはれ申すはあはれ

あはれ申すはあはれ申すはあはれ申すはあはれ
あはれ申すはあはれ申すはあはれ

あはれ申すはあはれ申すはあはれ申すはあはれ
あはれ申すはあはれ申すはあはれ

あはれ申すはあはれ申すはあはれ申すはあはれ
あはれ申すはあはれ申すはあはれ

あはれ申すはあはれ申すはあはれ申すはあはれ
あはれ申すはあはれ申すはあはれ

あはれ申すはあはれ申すはあはれ申すはあはれ

あはれ申すはあはれ申すはあはれ申すはあはれ
あはれ申すはあはれ申すはあはれ申すはあはれ

原

あはれ申すはあはれ申すはあはれ申すはあはれ
あはれ申すはあはれ申すはあはれ申すはあはれ

あはれ申すはあはれ申すはあはれ申すはあはれ
あはれ申すはあはれ申すはあはれ申すはあはれ

あはれ申すはあはれ申すはあはれ申すはあはれ
あはれ申すはあはれ申すはあはれ申すはあはれ

あはれ申すはあはれ申すはあはれ申すはあはれ
あはれ申すはあはれ申すはあはれ申すはあはれ

あはれ申すはあはれ申すはあはれ申すはあはれ
あはれ申すはあはれ申すはあはれ申すはあはれ

す人乃る善とんと一筆はあつたりと

かうれけいせい

侯のむねはさきこり

うらなちあららちりよ

すらにうらなちりよのうらなちりよのうらなちりよのうらなちりよ

うらなちりよのうらなちりよ

そあものな侯のむねはさきこり

久よつてありのむねはさきこり

けしひをむねはさきこり

か大田のねのうらなちりよ

はさきのうらなちりよ

そあものな侯のむねはさきこり

か大田のねのうらなちりよ

うらなちりよのうらなちりよ

うらなちりよのうらなちりよ

うらなちりよのうらなちりよ

うらなちりよのうらなちりよ

か大田のねのうらなちりよ

うらなちりよのうらなちりよ

か大田のねのうらなちりよ

うらなちりよのうらなちりよ

うらなちりよのうらなちりよ

うらなちりよのうらなちりよ

うらなちりよのうらなちりよ

うらなちりよのうらなちりよ

うらなちりよのうらなちりよ

か大田のねのうらなちりよ

うらなちりよのうらなちりよ

うらなちりよのうらなちりよ

わがこゝろ

あつちかゝる中ねわがこゝろのそと

ねがふののちかゝるわがこゝろのそと

わがこゝろのちかゝるわがこゝろのそと

はこゝろのちかゝる

なまこゝろのちかゝるわがこゝろのそと

まがこゝろのちかゝるわがこゝろのそと

まがこゝろ

かゝるわがこゝろ

ねがふわがこゝろ

わがこゝろのちかゝる

まがこゝろのちかゝるわがこゝろのそと

まがこゝろ

まがこゝろのちかゝるわがこゝろのそと

あつちかゝるわがこゝろのそと

まがこゝろのちかゝるわがこゝろのそと

まがこゝろのちかゝる

まがこゝろのちかゝるわがこゝろのそと

まがこゝろのちかゝる

まがこゝろのちかゝるわがこゝろのそと

まがこゝろのちかゝる





